

旧赤松家

The Former Akamatsu Family House



県・市指定文化財 旧赤松家門・塀・土蔵



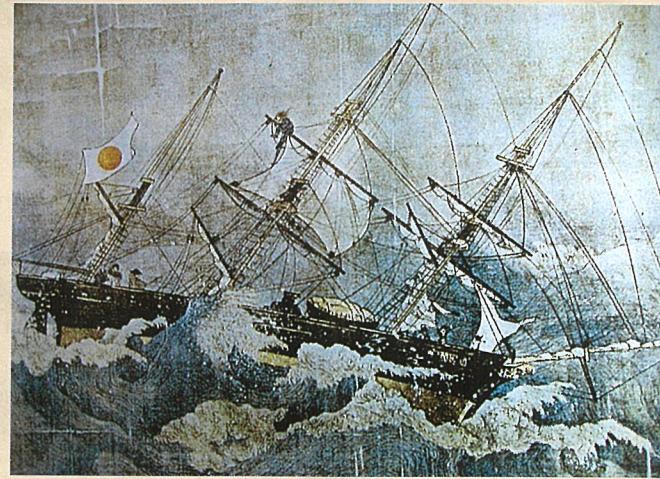
旧赤松家記念館

旧赤松家記念館

〒438-0086 磐田市見付3884-10 TEL&FAX.0538-36-0340
E-mail : iwata-akamatsu@uv.tnc.ne.jp

磐田市教育委員会

遣米使節団と咸臨丸 (横浜開港資料館所蔵)



江戸時代末期、アメリカとの条約交換の使節に随行し、日本の軍艦として初めて太平洋を横断したのが咸臨丸(艦長・勝海舟)です。

赤松則良は咸臨丸の乗組員(19歳)であり、測量方手伝として艦の運行に尽力しました。また、その功績を称えられ、サンフランシスコ港到着時の礼砲発射の号令の任を艦長・勝海舟より仰せつかっています。

幕末オランダ留学生 (沼津市明治史料館所蔵)



軍艦開陽丸の発注に伴い、江戸幕府はオランダへ留学生を派遣しています。彼らはそこで海軍兵制の諸術のほか造船技術や法学などを学び、西洋の知識や技術を日本へ持ち帰りました。

赤松則良(前列右から2人目)はその一員として造船ほか諸術を学び、帰国後は、造船技術者として明治時代の海軍の整備に尽力し、主船寮長官、横須賀造船所長などを歴任しています。

見付へ移住

幕臣であった則良が見付へ居を構えた理由として、地盤が強いこと、洪水の心配がないことなどが挙げられます。これは幼少の頃に目の当たりにした下田の惨状(安政の大地震)に起因するものでしょう。また、先に見付に居住していた親族・宮崎氏の存在も大きいと思われます。



赤松則良

旧赤松家

旧赤松家は、近代日本造船技術の先駆者で、明治期に磐田原台地に茶園を開拓した赤松則良が明治20~30年代に建築した邸宅跡です。

則良は遣米使節団への随行(咸臨丸乗組員)や、オランダ留学にて造船技術を習得するなど、幕臣として活躍し、明治時代に勳功により男爵号を授与され、その後海軍中将まで進みました。



二俣街道から旧赤松家を望む (明治40年代)



旧赤松家記念館

旧赤松家関連の市指定文化財などを展示しています。
旧赤松家施設の管理棟及び事務室として機能しています。



紙本金地著色源氏物語
【江戸時代中期・市指定文化財】
徳川家16代当主達より赤松則良が拝領されたと伝えられる品です。

槍 銘包直

【室町時代後期・市指定文化財】
安間家から赤松家が譲り受けたと伝えられる品です。



旧赤松家の門・門番所

【県指定文化財】

レンガの長手と小口を交互に積んだフランス積みといわれるレンガ造りが特徴です。

その造形の巧みさから県指定文化財となっています。



米 蔵

【市指定文化財】

旧赤松家の米蔵として使用されていた建物です。

現在は企画展示室として一般公開しています。

※明治33年上棟(棟札より)



内 蔵

明治期、旧赤松家の屋敷東端に、屋敷統の蔵がありました。この内蔵は、ほぼその位置にあり、現在1・2階とも展示室として利用しています。



図書蔵

この蔵には江戸初期から明治・大正にかけての貴重な書籍や資料が3000点以上も収められていました。
図書蔵は近代建築の要素と伝統工法とが組み合わされた建物です。

赤松則良 略歴

1841(天保12)

11月1日、則良、江戸で吉沢雄之進の次男として生まれ、大三郎と命名。



若き日の則良

1847(弘化4) 6歳 実祖父赤松泰助良則の姓を継ぎ、赤松大三郎と称する。

1855(安政2) 14歳 坪井信良の蘭学塾に学ぶ。

1857(安政4) 16歳 薔書調所句読教授出役を命ぜられる。

長崎海軍伝習所第3期伝習生となり、海軍士官を志す。

1860(万延元) 19歳 日米修好通商条約批准書交換の使節団に随行し、咸臨丸で渡米する。

1862(文久2) 21歳 軍艦開陽丸の発注に伴い、幕府派遣の留学生の一人として、オランダに留学し、造船技術等を学ぶ。

1868(慶応4) 27歳 大政奉還を知り、留学を中止し帰国する。

8月20日幕府奥医師林洞海の次女軾(後の貞)と結婚。

10月、幕府瓦解に伴い無縁住を決意。

磐田原の茶園開墾に着手する。

静岡藩沼津兵学校陸軍一等教授方。翌年頭取兼務となる。

1870(明治3) 29歳 新政府の命により兵部省に出仕。のちに海軍兵学校大教授となる。

1874(明治7) 33歳 海軍少将として、西郷従道を捕佐し、台湾征討に赴く。

1876(明治9) 35歳 主船長官、横須賀造船所長、海軍省副官となる。その後、国防会議員等海軍の要職を歴任する。

1880(明治13) 39歳 この年の新聞報道に、「則良の磐田原茶園は20余町歩あり、その中はとてもきれいでちょうど備後畠を敷いたようだ」と報じられる。

1886(明治19) 45歳 海軍造船会議議長、兵器会議議長、將官会議議員となり、軍人として最高の地位に栄進する。

1887(明治20) 46歳 勳功により男爵を授与される。海軍中将となる。

1893(明治26) 52歳 前年の12月に予備役となり、この年見付に本籍を移す。

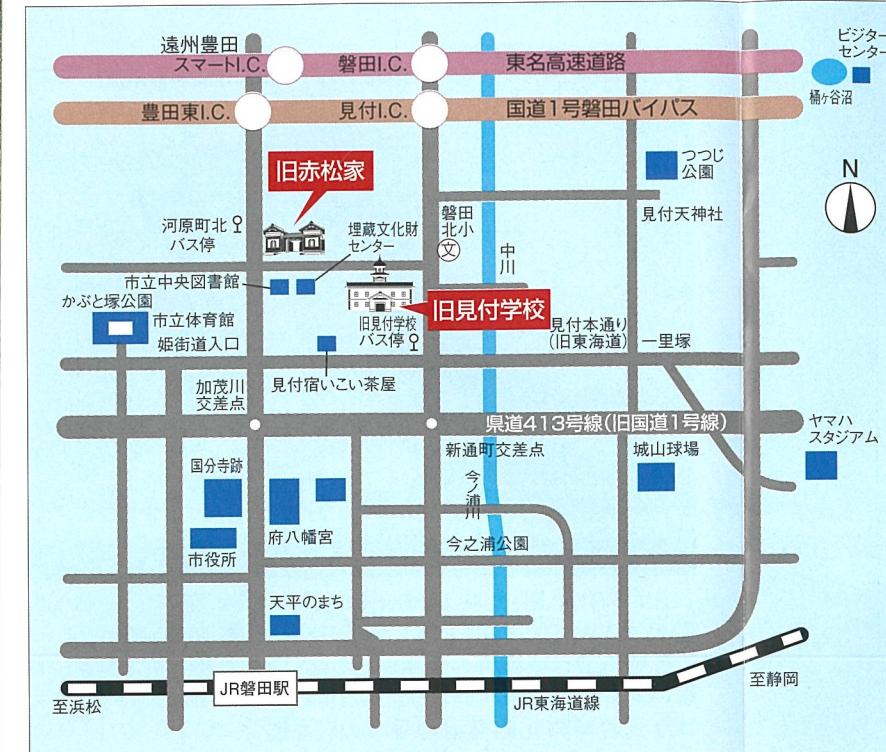
1897(明治30) 56歳 貴族院議員、日本造船協会初代会長に就任。1917(大正6)まで21年間務める。

1912(明治45) 70歳 4月、貞を病で亡くす。その後、上京し、長男範一家に住む。

1917(大正6) 76歳 貴族院議員、日本造船協会会長等全ての公職を辞す。

1920(大正9) 78歳 9月23日、病により逝く。東京駒込吉祥寺に眠る。

※年齢は満年齢による



入館案内

- 入場料 無料
- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 休館日 毎週月曜日(ただし月曜日が祝日または振替休日に当たるときは開館)、国民の祝日の翌日(ただしこの日が土・日・月曜日に当たるときは火曜日が休み)、年末年始(12月29日～1月3日)

交通のご案内

旧赤松家

- ◇JR磐田駅前北口バスターミナル②のりば 遠鉄バス⑩「二俣山東行き」⑨「ららぽーと磐田行き」乗車「河原町北」下車徒歩1分
- ◇東名高速磐田ICから約3.3km(約10分)
- ◇国道1号磐田バイパス豊田東ICから約500m(約2分)
- ◇県道413号線(旧国道1号線)加茂川交差点から車で北へ約1km(3分)

旧見付学校

- ◇JR磐田駅前北口バスターミナル①のりば 遠鉄バス⑩「磐田市立病院行き」乗車「旧見付学校」下車徒歩1分
- ◇JR磐田駅前北口バスターミナル②のりば 遠鉄バス⑩「見付磐田営業所行き」乗車「新通町」下車徒歩5分
- ◇JR磐田駅前北口バスターミナル②のりば 秋葉バス「遠州森町行き」乗車「旧見付学校」下車徒歩1分

磐田市ホームページ



磐田市文化財



旧見付学校



磐田市ホームページ

広告

美味咲き、心和むひとときを。



磐田市見付幸町3884-5 ☎0538-32-7078
定休日／月曜日 URL : <http://tenjiro.com/>



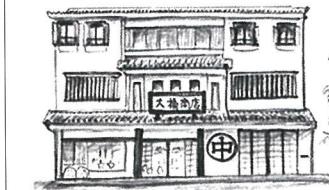
学校法人 磐田東学園
磐田東中学校・高等学校

赤松照彦氏との由縁
磐田東学園理事長
(1962～1979)
磐田東高等学校校長
(1964～1978)

〒438-0086 静岡県磐田市見付180-5
TEL.0538-32-6118(代)
E-mail : voice@iwatahigashi-h.ed.jp
www.iwatahigashi-h.ed.jp/



酒類専門店
創業明治10年



〒438-0086
磐田市見付 1232-1
TEL:0538-32-5222
平日 9:00～20:00
日祝 9:00～19:00
定休日 水曜日

～お酒は20歳になってから～

